



號七十七第
 月二年九十和昭
 行發日五十月一每
 錢五部一價定
 錢十六(共稅)分年一
 一才 田杉 編發行
 人副印輯
 園公谷比日區町總都京東
 社信通盟同 所行發
 (員々會版出本號)
 (八〇〇〇三二日番)
 (八〇一東東)

決戦段階に於ける

報道戦士の覚悟

社長 古野伊之助

兩戦場の合戦

本年初頭以来、歐洲の戦場では相變らず東部戦線を中心に獨ソ兩國の血戦死闘が續いてゐる。東亞の戦場においては、アメリカの太平洋上における對日反攻の氣勢が益々猛烈になつて來てゐる。

或はギルバート、マーシャル諸島を経て段々日本本土の周邊において、本土の上空において、日米の決戦となるべき時も近寄つて來つつあるのではなからうかと思はれるのである。

かうした事態を眼の前において靜かに今次大戦勃發以来の世界の大勢を振り返つてみると、一體今日までに戦争らしい戦争をしたのはロシヤとドイツだけではなかつたか。大東亞戦争、大東亞戦争と聲を擧げて叫んでゐるが、一體日本は本當に戦争らしい戦争——國運を賭けての一大綜合戦を大東亞戦争勃發以來やつたであらうかこんなことを私は最近考へてゐるのである。

戦争の現段階

歐洲においては正にドイツとロシヤは一度の會戦に數十萬、一期の作戦に數百萬といふ龐大な人的

物的戦力を消耗してゐる。この二國は確に今度の大戰に「戦争」をしたといひ得ると思ふ。しかもこの二國は今なほ決戦を將來に残してゐる。

さうすると今次の戦争は現段階までに何をなし遂げたか。イギリスはこの大戰の當初から戦争に死物狂ひに参加してゐるやうにみえてゐるけれども、老獪なる彼れイギリスは現實に一體どれだけの國力を傾注消耗したか。アメリカのごときは獨ソ兩國のそれに較べればまだ茶番狂言の段階を一步も出てゐないのであるかと思ふ。

日本はどうか。個々の戦場では世界戦史に比類なき善謀勇戦、激戦死闘を繰り返してゐる。支那事變、大東亞戦争を通じて世界の青史に類すべき史實を止めざる大戰果を獲得した。しかもわが方の損害は僅か數十萬を算する程度と察せられる。これで果して最後の勝利をわがものとすべく、有利な態勢を維持できるであらうか。

米英撃滅

そこで今次の大戦當初以来の情勢を鑑みるに、敵側は頻りにモスクワ會談とか、オッタワ會談とかカイロ會談とか、テヘラン會談とか、いろいろな空騒ぎを繰返してゐるが、一體實質的に國の運命を賭して戦をやつたものは、ドイツロシヤ、この二國ではなからうか。さうすると、これからの戦は日本帝國が、未だその國力を著へて残してゐる米英兩國を東にして片づけねばならぬのだといふことを考へなくてはならないと、この頃私は思つてゐる。

何といつてもアメリカは世界政治といふ観点からみると、まだ幼稚な赤ん坊である。老帝國イギリスは過去百年以上にわたつて全世界の人口領土の四分の一を領有して、これを最も現實的な施策により保持して來たものであるだけにその世界政治を指導する老獪な一連の保守的政治家が巧みに世界の政局を操つて來てゐることは、世界の歴史に明かに示されてゐる通りである。

ビルマ反攻未し

獨ソ戦争勃發以來頻りにやかましく言はれた第二戦線も、今年は三月頃にはどうするとかいふ聲をきいたが、まだその模様も現れて來ない。

また去年の十月、十一月の雨季明けにはビルマ總反攻だといふ聲を頻りに聞いたが、未だ總反攻らしいものは一向現れてゐない。この數ヶ月の間に、恐らくは二月、三月の間に、この二つの問題の現實的事態が明白になることと思ふ。若しイギリスが本當にヨーロッパの戦場において、その人的、物的



ビルマ、やれマーシャル、それ千島と右往左往してゐる間に、落付き拂つて先づ濠洲をアメリカの勝手に兵器廠化せしむるであらう。狡猾なアメリカはこの戦争で世界が歐洲の戦場に注意を集中してゐる間に巻き上げたアフリカ、地中海、西アジア、インドと繋がる一連の地域にドンドン現地の戦力化、兵器廠化をした上で、ゆつくり東亞における緒戦以来の敗戦をとり戻そうと考へてゐるのだと斷定しても大した的外れではないのではないか。

こんなことを私は最近考へてゐるのである。私の豫想の當らぬことを希望する。

徹底的の戦力増強

眼の前の小さな戦の勝敗に一喜一憂したり、或る地域の部分的事象に眩惑されたりしてゐてはならない。本當に日本國民一億、否東亞十億の徹底的戦力の増強にとりかからなくてはならぬのではなからうか。

敵米英は頻りに日本本土空襲を呼號するが、關東震災で帝都の半分を焼野原と化したから、再び復興した日本國民である。非人道的無差別爆撃によつて皇國日本の存亡がどうなるものではない。

はつきり世界の大勢を見透して一步々々、その日その日の生活にわれらの生活を強化してゐるか、否かといふことが問題なのである。世界に冠絶したこの國體、世界に比類なきこの地理的優位を藏して起つ一億國民の識見、その努力、これに缺くるところさへなければ皇國日本の前途は洋々たるものである。(以下次頁へ續く)

米英の意圖

若し歐洲に第二戦線が近き數ヶ月間に展開されず、また東亞において積極的な猛烈な、ビルマ反攻が行はれないならば、恐らくはイギリスは、もつともつと先を見越して、日本が青筋をたてて、やれ

【寫眞説明】一月八日午前八時半宮城前までの行進を了へて日比谷公園廣場に歸り整列した同盟社員を査閲中の古野社長

辭 令

海外局長兼海 堀 義貴
外局長常務理事 堀 義貴
戰時調査室常務理事兼務トス
編輯局長常務理事 萩野 伊八
戰時調査室總務部長、總務部企畫主任兼務ヲ命ス

戰時調査室內閣部 西村 二郎
部長兼總務部長總務 西村 二郎
部長兼主任兼務 西村 二郎
戰時調査室總務部長、總務部企畫主任兼務ヲ命ス

決戰第三年を迎へ同盟社内に戰時調査室が設置された。内外の諸資料を廣く蒐集し、諸般の情勢に關する機動的調査をなし、同盟の内外思想戰遂行に資する一方、關係當局に重要參考資料を供給して聖戰完遂に寄與することを目的とするものである。戰時調査室の陣容は左のごとくである。

戰時調査室の陣容

大阪支社通信 日笠多賀之助
部長副參事 德島支局長ヲ命ス
(十二月二十九日附)
聯絡局通信 杉 勝
福島支局長ヲ命ス
室蘭支局長 佐藤文三郎
札幌支社編輯主任ヲ命ス(十二月三十一日附各通)

大阪支社勤務社員 井上新太郎
德島支局長ヲ命ス
山口支局長心得ヲ命ス
門司支局長 岡福 藤春
編輯局囑託 小幡重三郎
宇都宮支局長ノ事務ヲ囑託ス
大分支局長副參事 大西保太郎
編輯局整理部校正主任ヲ命ス
大阪支社通信部 日笠多賀之助
長兼德島支局長 事務取扱兼務ヲ命ス
德島支局長事務取扱兼務ヲ命ス(一月二十九日附各通)

總務局勤務參事 三藤 順記
濠洲國通信社(歸還ノタメ解職)
總務局出版部 伊藤 愛二
次長副參事 依願解職(十二月三十一日附各通)
海外局華文部 于 芝 雲
編輯副主任 依願解職(一月十五日附)
編輯局勤務社員 藤崎 辰也
大阪支社同 内海裕士士
南方總局勤務ヲ命ス
聯絡局勤務准社員 鈴木 定平
成興支局勤務ヲ命ス
成興支局同 尾崎 義夫
聯絡局勤務ヲ命ス(十二月二十九日附各通)

聯絡局同 堂田 要三
廣江喜世春
新義州支局勤務ヲ命ス(十二月三十日附各通)
室蘭支局勤務社員 猪坂 正春
後藤 勇
札樾支社勤務ヲ命ス
石田 誠一
野口 正男
聯絡局勤務ヲ命ス(十二月三十一日附各通)
總務局勤務社員 高島正太郎
濱田 秀雄
海外局同 齋藤 玄彦
編輯局勤務ヲ命ス
關貢支社勤務ヲ命ス
華中總局同 澤入 猛次
聯絡局勤務ヲ命ス
總務局勤務准社員 小林 五郎
經濟局勤務ヲ命ス(一月一日附各通)

南方總社勤務ヲ命ス
岩本 武士
同 榎谷支局同 野間 正二
編輯局勤務ヲ命ス(二月八日附各通)
海外局勤務副參事 村山 謙
澤田 久太郎
寺田 忠男
西川 忠男
鈴木 敏夫
南方總社勤務ヲ命ス
漢口支局同 國井 年春
中華總社勤務ヲ命ス(一月十一日附各通)
南方總社勤務社員 上田 正義
關貢支社勤務ヲ命ス(一月十二日附)
中華總社勤務社員 笠原丈三郎
九江支局勤務ヲ命ス
九江支局同 松本 亨
華中總局勤務ヲ命ス(一月十三日附各通)
聯絡局勤務准社員 須藤五郎治
新義州支局勤務ヲ命ス
編輯局勤務社員 山田邦之助
南方總社勤務ヲ命ス(一月十七日附各通)
華北總局勤務准社員 中村 方宣
濟南支局同 新谷 清志
徐州支局勤務ヲ命ス(一月十八日附)
南方總社勤務社員 小山 正美
關貢支社勤務ヲ命ス(一月十九日附)
海外局同 林 祐次
關貢支社臨時在勤ヲ命ス
漢口支局同 宮澤 義雄
編輯局勤務ヲ命ス(二月三十一日附)
滿洲國通信社社員 佐藤 武美
社員ヲ命ス(十一月一日附)
海外局勤務 三浦三千代
准社員ヲ命ス
經濟局勤務ヲ命ス(二月一日附)

編輯局勤務社員試用
結束 博治
圓谷 文夫
小野 輝三
木藤 幸雄
出來 年秋
賀來 貞雄
森本 孝
朝倉 隆
石井 彰
佐々木達夫
立川 光夫
岩崎 忠治
大瀧 守雄
中島 覺
貞安三十一
西川 忠男
渡邊 勇
若竹 太
高田 傳
藤井 征平
要 保太郎
仲丸 博通
佐藤 哲郎
高橋 清助
工藤 キク
米田 辰義
新里 次雄
飯島 壽
松野 秀雄
關口 俊
伊藤 忠夫
中村 方宣
池上 光
村上 敏夫
加賀山一夫
淵上キヌエ
中上ヨシ子
中上 昭子
白土 眞弓
飯塚 雪子
土井 宇中
勝間喜代子
(以下次頁へ續く)

辭令 (前頁よ)

Table of personnel changes and appointments. Columns include names (e.g., 持田 和子, 酒井ふじ子), positions (e.g., 同, 同), and specific assignments or dates (e.g., 依願解職(一月十日附)).

Table of personnel changes and appointments. Columns include names (e.g., 猿渡 猛, 久野 正夫), positions (e.g., 同, 同), and specific assignments or dates (e.g., 依願解職(一月六日附)).

Table of personnel changes and appointments. Columns include names (e.g., 戸田 健一, 三納 信子), positions (e.g., 同, 同), and specific assignments or dates (e.g., 依願解職(一月十五日附)).

Table of personnel changes and appointments. Columns include names (e.g., 南 典人, 小杉 榮一), positions (e.g., 同, 同), and specific assignments or dates (e.g., 依願解職(一月十日附)).

Table of personnel changes and appointments. Columns include names (e.g., 金村 相化, 末吉 光義), positions (e.g., 同, 同), and specific assignments or dates (e.g., 依願解職(一月十日附)).

互助會報告

【十二月分】

△結婚
清水 英雄 (經濟局)
鈴木 鈴子 (同)
山田 顯義 (聯絡局)
小澤 徹郎 (編輯局)
幡野 博一 (同)
山本喜美江 (聯絡局)
羽田 繁樹 (大阪支社)
齋藤 省吾 (名古屋支社)

△應召・入替・應徵

坂本 三郎 (海外局)
門田 浩 (經濟局)
武田 弘 (總務局)
馬淵 謙一 (編輯局)
佐藤 一雄 (經濟局)
漆原 治 (大阪支社)
今井信太郎 (同)
大橋 博 (同)
齋藤 清 (名古屋支社)
宇都宮重隆 (福岡支社)
柴田 龍介 (同)
山口 忠 (同)
東條 長生 (同)

Table titled '昭和十八年度 互助會收支精算書 (昭和18年12月31日現在)'. It shows financial data for income and expenses, including items like '前18員預合', '収入の部', and '支出の部'.

Table listing names and their corresponding status or actions, such as '△退社' (Resignation) and '△見舞' (Condolence). Names include 伊藤 信義, 船崎 德太郎, etc.

冬將軍降伏

お江戸名物の空ッ風が吹きまくり凍てついた日比谷原頭の廣場に散開して、裂帛の氣合も勇ましく、籠手に身を固めた郷軍同盟分會員は本年一月十日以来毎朝毎朝、銃劍術の寒稽古を續けたが、二月一日一先づ終了した。決戦下の思想戦々士は直ちに野戦の精兵であらねばならぬといふ古野社長の大方針が徹底して、全會員出席といふ良好なる成績を収めたことは特筆に値する。

なほ同盟分會ではその後も引續き同盟産報青年隊の寒稽古を指導してゐるが、山本總隊長以下全員

郷軍同盟分會の寒稽古

總出で、これまた見事なる成績を挙げ二月十九日終了した。(寫眞は郷軍の寒稽古)

同盟分會々歌

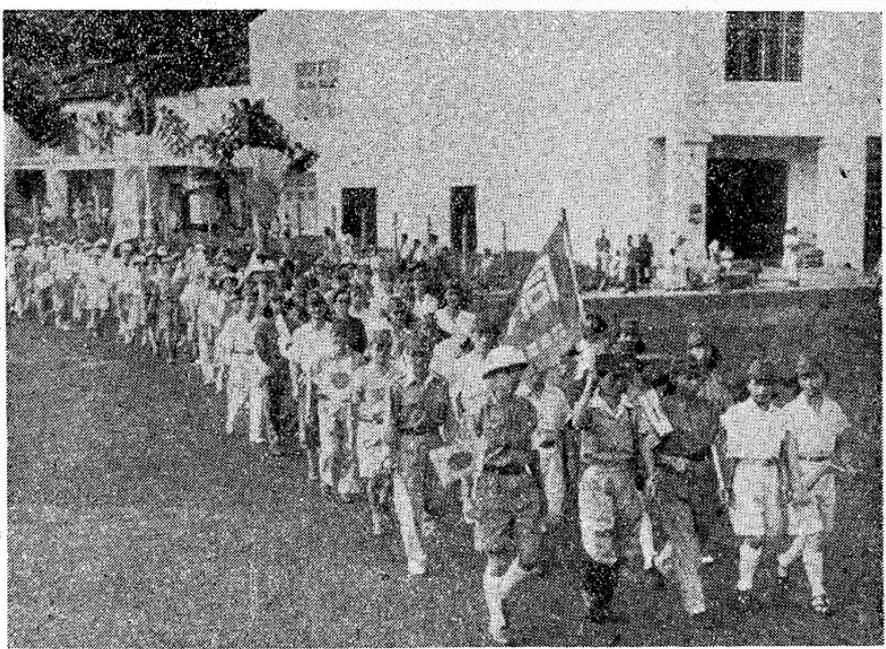
- 一、明治の始め長くも畏し近衛の兵が錦旗咫尺に拜したる皇軍鍊武の發祥地
- 二、日比谷原頭春淺く花には遠き朝まだき見ずや同盟分會の
- 三、異中稽古や寒稽古鍊磨す護國の雄叫は愛宕の森にこだまして楠公像もほほ笑まむ
- 四、秋風寒き多摩河原夜半の同盟道場に夢路を破る喇叭の音劍光月に忍ばせて
- 五、陣中勤務や戰鬪の石火飛び散る演習に鐵か鋼か必勝の信念堅く養成す
- 六、報道の筆報國の務めはあれど事あらば銃に劍に代へ執りて益良男いかで後るべき
- 七、筆劍一如の旗風に聖諭畏み業を練り銃執る腕を鍛へつつ晴れの征く日に備へなむ



大行進に参加

昭南の記念日行事

大東亞戰爭二周年記念日を三日の後に控へて多彩な記念行事のトップを切り、十二月五日興南奉公會主催、全會員の昭南神社參拜大行進が行はれた。參加會員は昭南



特別市支部會員をはじめ、遠く馳せ參じた各州代表等千餘名、午前八時、市廳舎前の緑の大廣場に集けつく炎熱ものかは、思ひ出のブキテマ路蜿蜒十二キロを踏破、一人の落伍者もなく社前に英米撃を十二隊に分つて九時出發、手に日章旗を繚しつづつラスパンの意氣を大いに昂揚した。(寫眞はオーチャ・ロードを行進中の同盟部隊)

この日わが同盟も福田總局長

マニラ支社の今日この頃

先づ社報を通じて、平素の御無沙汰をお詫びし、社長以下本社並に内外總支社局各位の御健康を祈る報國の誓を新にする次第です。

マニラ支社は邦人、現地人を合せて八十餘名に上る大世帯となり陣容は可なり強化をみました。通信は邦文、英文の外、昨年九月から華文を正式に開始し、陸海軍、放送局、フィリピン政府官廳、邦人商社、マニラ新聞、トリビュン(英文)、ラ・ヴァガルーディア(スペイン語)、タリド(タガログ語)、華文マニラ新聞などに供給し、決戦下同盟通信の威力を遺憾なく發揮しつつあります。

しかし、いづこも同じ資材難で苦勞してゐます。必要な品は馬鹿らしいと知りながら、法外な値段で買はねばならぬといふ状態、少しくらゐる増収をみたとして追ひつかなくなりました。昨年一、二月頃までのマニラは物資が豊富でしかも低廉、南方隨一の天國のやうにいはいはれてましたが、最近の物價高は驚くばかりです。衣服類は切符制になつてゐますが、切符があつても品物を買へません。

以前支社員の合宿から支社まで十錢で來られたカールテラ(乗合馬車)が一圓に上りしかも車の數が減つたのでなかなか乗れなくなりまし。自動車燃料も出来るだけ節約せねばならぬから支社員は、この節は合宿から支社まで四料の炎天下をテラすることが度々です。支社専用のカルテラを一輛買つてはとの譲も

あるが、まだ手に入れることができませぬ。物價のうちでも食料品の値上りは可なり大幅で、ものによつては驚愕な値段をとへるものもあります。バナナ一本十五錢から二十五錢するときは、内地の皆様もおつたまげるでせう。支社員は晝食を外で食ふことがむづかしくなつたので、今年の正月から握り飯に煮込み程度の簡単な晝食を社の食堂で食ふことにしてゐます。

以上のやうな状態ですから今後マニラ方面へ轉動になつて來られる方は破れ靴でも、ボロシャツでも、出来るだけ身廻品や必要衣類を澤山持參して下さい。マニラへ行けば何でも手に入るだらうと考へたら大間違ひです。では大同盟の同志の皆様、祖國の内と外にあるを問はず、今年も緊張して精勵奉公の途を邁進しませう。昭和十九年一月マニラ支社報、寫眞は同盟第一宿舎前に於て寫す

